

がん相談支援センターからの期待 図書館との関係づくり ～河内長野市の取り組み～



独立行政法人 国立病院機構

大阪南医療センター

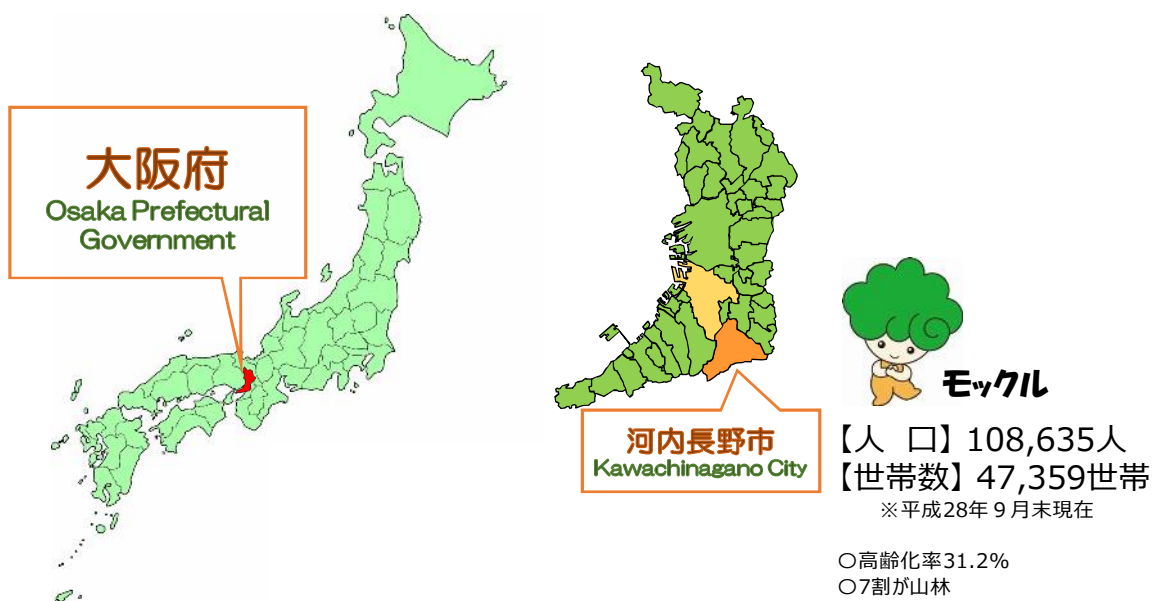
がん相談支援センター・地域医療連携室

がん相談支援センター長補佐

医療社会事業専門職

社会福祉士 萬谷和広

大阪府河内長野市ってどこ？





独立行政法人 国立病院機構
大阪南医療センター



地域医療支援病院（470床）

- 地域がん診療連携拠点病院
- エイズ拠点病院
- BFH（赤ちゃんにやさしい病院）認定施設

がん相談支援センター



「がん相談支援センター」は、全国の「がん診療連携拠点病院」や「小児がん拠点病院」「地域がん診療病院」に設置されている、がんに関する様々なご相談ができる窓口です。



河内長野市立図書館



【施設内容】



- | | |
|----|---|
| 1階 | <ul style="list-style-type: none"> 児童書コーナー おはなしのへや ヤングコーナー グループ室 展示・録音図書コーナー 対面朗読室 展示・録音室 音と映像コーナー 雑誌・新聞コーナー 授乳室 自動車文庫書庫 自動車文庫車庫 その他 |
| 2階 | <ul style="list-style-type: none"> 一般書コーナー 調査・相談コーナー 調査相談室 事務室 選書コーナー ワークルーム1 ワークルーム2 コンピュータ室 その他 |

【蔵書冊数】
477,426冊（平成27年3月31日現在）
【貸出冊数】
1,140,358冊（平成26年度実績）
【年間利用者数】
53.7万人/年（平成26年度実績）
※河内長野市11万人弱
※平成27年版河内長野市立図書館年報
（平成26年度（2014年度）統計）より

がん相談支援センターでは、図書館に何を期待するか

① お互いの特徴（強みと弱み）を理解する・関係を築く



② お互い補完・強化できる試みを行う
(お互い持っている情報に付加価値をつける)



③ 住民(国民)ニーズ(療養の質の向上)に対応できる、体制の構築する

以上のことを『協働』して行うことに期待を寄せています。

↑ 今日の話

① お互いの特徴（強みと弱み）を理解する・関係を築く

特徴（強みと弱み）の違い

	病院(がん相談支援センター)	図書館
認知度	認知度が低い	認知度は非常に高い (知らない人はいない)
アクセス	● 誰でもアクセスできる 相談窓口を訪れるには、勇気がいる	● 誰でもアクセスできる 軽い気持ちでアクセスができる。
場所 空間	● 現実的な場所 (医療の場・診察の場) ● 「どうしたんだろう？」と気にされる ● 相談しやすい環境の工夫はある	● 一歩引いて自分をみれる ● 居続けても干渉されない、気にならない ● 落ち着く空間が用意されている

『情報』という側面から見る特徴（強みと弱み）

	病院(がん相談支援センター)	図書館
情報を 得るには	● 相談が中心で情報を得る (情報室を利用することもある) 【強み】 ● 個別の対応が可能 (マッチした情報が得られる) 【弱み】 ● 自分のプライベートな部分も伝え ないといけない。 ● 体力・精神的なしんどさ (人と接する・話す)	● 本が中心で情報を得る (レファレンスを利用することもある) 【強み】 ● 自分のペース、タイミング、時間で。 ● 音声等の工夫もある。 【弱み】 ● マッチしている情報が不明
情報の 内容	● エビデンスの高い情報 ● 情報量は、多いわけではない。	● 幅広い情報 ● 一般知識も含めて多くの情報がある
まずは、お互いこれらの強み・弱みを知る関係性を持つことが大切		

② お互い補完・強化できる試みを行う (お互い持っている情報に付加価値をつける)

試み① お互いの環境を相互利用できるために

2015年3月～ お互いの情報交換と配置 (月1回+臨時の郵送にて)

病院内

廊下の本棚に配置

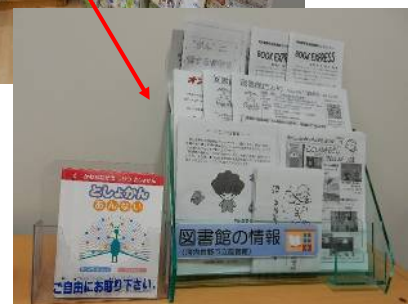


患者情報コーナーの中に配置



- 図書館利用案内
- 図書館便り
- おすすめ本

※図書館には様々な情報を得られる場所であることを示しています。



図書館内



- がん相談支援センターのパンフレット
- 患者サロンのパンフレット
- 患者情報コーナーのパンフレット

※病院の案内はついていません。
※相談できる、情報を得られる環境があるという情報を示しています。



図書館内

2016年3月2日 ~

図書館で、医療コーナーの設置（病院から必要なパンフ郵送）



お互い強み・弱みがあり、補完しあうことで、情報提供に付加価値が生まれる

試み② お互いの情報を協働して提供するために

乳がん講演をお互いの特性を生かして実施

2016年7月21日

図書館講座の打ち合わせ（大阪南医療センターにて）

2016年8月9日

図書館講座の会場下見（図書館にて）

2016年9月25日

図書館講座の開催（乳がん）

2016年7月21日

図書館講座の打ち合わせ（大阪南医療センターにて）

それなら、若い人にも来て
もらいたいですね。
子連れでも来れるような会
にしたいですね。

最近、乳がんが注目されているので、
そんな講演できませんかね？？

【協議事項】

- ・講演テーマ、講師
- ・コンセプト、ねらい
- ・広報の方法
- ・運営方法
- ・日程、場所の確認



会場の設営を考えてみま
しょう！

2016年8月9日

図書館講座の会場下見（図書館にて）



この辺に、キッズスペースを設定してはどうだろうか？

【協議事項】

- ・配置
- ・必要物品とどこから調達するか
- ・受付方法
- ・職員の役割分担



ベビーカーはどこに置く？

2016年9月25日 図書館講座の開催（乳がん）
会場設営（資料）



【資料の配置】

- ・がん全般のパンフ
- ・検診に関するパンフ
- ・乳がん触診模型の展示
- ・たばこ等の害に関する展示(タール)



【資料配布】

- ・講演に関する資料
- ・がん相談支援センター資料（大坂南医療センター）
- ・大阪南医療センター乳腺外科案内
- ・河内長野市立図書館に関する資料

**2016年9月25日 図書館講座の開催（乳がん）
会場設営（受付・貸出図書）**



【河内長野市立図書館の図書案内】

- ・がん全般に関する図書
- ・乳がんに関する図書
- ・医療関係職業に関する図書



**2016年9月25日 図書館講座の開催（乳がん）
会場設営（キッズコーナー）**

河内長野市立子ども・子育て総合センター「あいっく」より



玩具

マット



絵本

河内長野市立図書館
児童書コーナーより

大阪南医療センター
小児科より

2016年9月25日 図書館講座の開催

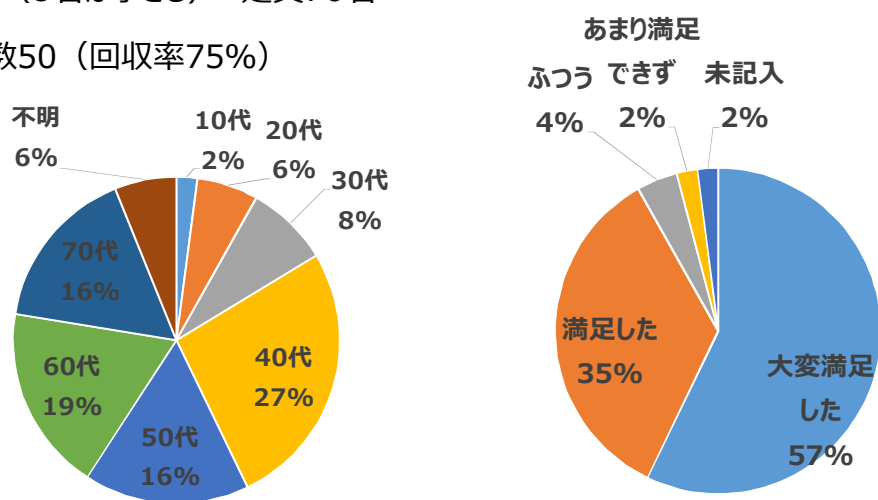


講演後に、がん相談支援センターの案内を行った

2016年9月25日 図書館講座の開催（乳がん）アンケート結果

参加者：75名（8名は子ども） 定員70名

アンケート回収数50（回収率75%）



お互い強み・弱みがあり、補完しあうことで、情報提供に付加価値が生まれる

病院(がん相談支援センター)と図書館の試み

- お互いの特徴(強みと弱み)を理解する



- お互い補完・強化できる関係を築く
(お互い持っている情報に付加価値をつける)

お互いをつなぐ試みを実施してきました。

お互いの強み・弱みを理解する関係性作りをしました。

**その上で、お互いが持つ情報(強み・弱み)を補完しながら、
2者で協働した情報提供は、付加価値を構築できたと考えます。**

- ③ 住民(国民)ニーズ(療養の質の向上)に対応できる
体制の構築する

ここを目指したい

③ 住民(国民)ニーズ(療養の質の向上)に対応できる、体制の構築する



花井さん
河内長野市立図書館

【図書館の方からも将来的なビジョンとして示されています】

住民へ提供する医療・健康情報を充実させて、もっと図書館を利用してほしいと考えている図書館も多いと思います。

地域の医療機関と目的意識を共有し、情報交換を重ねることによって、その地域のニーズに合った新しいサービスが生まれるのではないかと思います。

どのような形態になるのかは、まだ、はっきり見えていませんが、以上の活動を継続し、住民(国民)のためになる体制を、パートナーとして、**協働して**構築したい。

これからされる方、まずはここからスタート

2015年1月29日

公共図書館員のための医療情報サービス研修会 in 大阪
(豊中市立岡町図書館)
河内長野市立図書館の司書さんと知り合いに。



豊中市立岡町図書館

2015年2月15日

大阪南医療センターがん相談支援センター並びに情報コーナーの見学
河内長野市立図書館の司書さん2名が来院してくれました。
お互いの情報の特徴等を理解。

図書のプロから見てもらい、不十分な点、検討すらしていなかった点をご指摘いただきました。



2015年3月15日

河内長野市立図書館に見学。

お互いの情報提供の仕方などを見学することから始めました。

これからされる方、まずはここからスタート

●お互いしないといけない、『広報』という観点からスタート

がん相談支援センターは、がん相談に対して広報をする任務がある
図書館は、広く市民に広報する任務がある

●まずは、がん相談支援センターへまずは連絡してみては？

お近くのがん診療連携拠点病院には「がん相談支援センター」が必置です。
「がん相談支援センター」へご相談するのも一つです。

または、地域との連携や、地域活動自体を業務にしているのが、医療ソーシャルワーカー（医療機関で務める社会福祉士）です。お近くの病院に「医療ソーシャルワーカー」がいたら一度ご提案をしていただければと思います。